

表12

調査・研究上の課題に対する指導・助言の実施状況
(AからF段階)

フタッフ保健婦

	課題と 思っている項目	指導を受け ている項目	実施率 (%)	課題と 思っているが 指導を受けていない項目	課題と 思っていないが 指導を受けた項目
1	13	10	76.9	A-2,D-1・4	E-2・3
2	5	3	60.0	B-5・6	C-3
3	8	8	100.0		
4	15	12	88.0	B-5,D-1	A-1,C-2
5	10	9	90.0	B-6	
6	5	0	0.0	A-2,B-1,C-3,F-2・5	A-1
7	11	10	90.9	F-2	
8	15	14	93.3	F-6	B-5,D-2・3・4
9	9	9	100.0		E-3
10	4	3	75.0	F-1	F-2
11	17	17	100.0		
12	11	10	90.9	F-6	F-4
13	4	2	50.0	C-1,E-1	
14	16	12	75.0	B-1,E-3,F-5・6	F-3
15	13	9	69.2	A-1・2,B-5,D-1	
16	8	6	75.0	E-3,C-3	D-1,F-3
17	7	7	100.0		B-2・3・4・6,D-4・5,F-2
18	18	11	61.1	B-2・3・4・5,C-1・2・3	

指導保健婦

	課題と 思っている項目	指導をして いる項目	実施率 (%)	課題と 思っているが 指導をしていない項目	課題と 思っていないが 指導をしている項目
1	19	18	94.7	B-1・2・3・5・6,C-2・3,D-2・3・4・5,E-1・2,F-1・5	A-1
2	21	6	28.6	D-2,F-1	A-2
3	5	3	60.0	B-4,F-5	C-3
4	7	4	57.1	B-4,F-4・5	
5	7	7	100.0		
6	9	5	55.6	B-2・3・6,F-2	
7	-	-	-		
8	-	-	-		
9	9	5	55.6	B-2・3,D-5,F-6	
10	10	0	0	B-1・3・6,C-2,D-2・4,E-3,F-2・3・6	A-1
11	12	8	66.7	A-1,B-6,C-5,F-2	A-2,B-1・2,F-3
12	5	3	60.0	F-1・2	
13	-	-	-		
14	7	4	57.1	A-1,E-3,F-1	
15	8	6	75.0	B-6,F-2	B-4,D-1
16	4	1	25.0	B-4,C-3,F-2	
17	10	9	90.0	E-3	E-2
18	-	-	-		

表 13

調査・研究上の課題に対する指導・助言の実施状況
(G段階: ケアマネジメント)

スタッフ保健婦

	課題と 思っ ている項目	指導を受け ている項目	実施率 (%)	課題と 思っ ているが 指導を受けていない項目	課題と 思っ ていないが 指導を受けた項目
1	3	1	33.3	G-4・5	
2	1	1	100.0		
3	2	2	100.0		
4	2	0	0.0	G-2・5	G-3
5	-	-	-		
6	3	0	0.0	G-3・4・6	
7	5	4	80.0	G-2	G-7
8	6	3	50.0	G-5・6・7	
9	3	3	100.0		G-5
10	4	1	25.0	G-1・3・6	G-2・5
11	5	0	0.0	G-2・3・4・5・7	
12	5	0	0.0	G-1・3・4・6・7	
13	-	-	-		
14	4	1	25.0	G-3・5・7	G-2・6
15	2	0	0.0	G-4・6	
16	2	0	0.0	G-4・6	
17	5	0	0.0	G-2・4・5・6・7	
18	5	5	100.0		G-2

指導保健婦

	課題と 思っ ている項目	指導をして いる項目	実施率 (%)	課題と 思っ ているが 指導をしていない項目	課題と 思っ ていないが 指導をしている項目
1	5	5	100.0		G-3・5
2	4	2	50.0	G-3・7	G-6
3	5	0	0.0	G-1・3・4・6・7	
4	1	1	100.0	G-3・4・5・6・7	
5	-	-	-		
6	1	1	100.0		
7	-	-	-		
8	-	-	-		
9	4	4	100.0		
10	5	1	20.0	G-1・4・5・6	
11	2	1	50.0	G-6	G-2
12	3	0	0.0	G-3・4・6	
13	-	-	-		
14	3	0	0.0	G-5・6・7	
15	2	2	100.0		
16	4	0	0.0	G-4・5・6・7	
17	5	5	100.0		
18	-	-	-		

表14

スタッフ保健婦と指導保健婦が課題と思っている内容

		スタッフ保健婦の判断	指導的立場の保健婦の判断
A	段階・調査・研究の意義	10年度	10年度
		<ul style="list-style-type: none"> ①調査・研究を行なう意義や目的がわからないこと ②調査・研究をするきっかけがつかぬこと ③調査・研究する同意がチーム内で得ることが難しいこと ④多忙な業務の中で調査・研究をする意義を見つけないこと ⑤担当業務と平行して実施することが難しいこと ⑥調査・研究の意義は経験しないと分からないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ①調査・研究を保健婦の日常活動として位置付けていないこと ②調査・研究の必要性に関する認識が低いこと ③調査・研究の動機付けや姿勢が少ないこと ④保健所における調査・研究の位置付けの不明瞭さ ⑤業務の多忙さ
		11年度	11年度
		<ul style="list-style-type: none"> ③所内における研究に対する認識が不足していることから、研究の意義に関する共有化が重要である。 ④保健婦業務の中に調査・研究を位置付ける必要がある。 ○保健所における調査・研究の位置付けが不明瞭で担当部署があいまいである。 	<ul style="list-style-type: none"> ①日常業務に基づく研究実践が困難である。 ①業務の中で研究時間の確保が難しい。 ②業務の中で調査・研究の必要性、意味の共通理解が不足している。 ②調査研究は専門職の役割であるという認識が不足している。 ③研究を行うことの動機付けが難しい。 ○事業について客観的評価の視点が不足している。
B	段階・問題の把握と明確化	10年度	10年度
		<ul style="list-style-type: none"> ①地域で起きている現象、問題を感ずることが困難であること ②問題を研究的に整理したり、課題を明確にすることが難しいこと ③問題の背景・原因を明らかにするための情報・知識が十分でないこと ④業務分担当により地域の実情が把握しにくく、地域にできる機会が少なく、対人サービスの低下により地域の問題を十分に把握しないまま活動していることがあること ⑤事態調査から課題を特定することが難しいこと ⑥課題解決に当たって具体性、客観性が求められること ⑦背景となるデータ、情報収集が難しく、手段が限られていること ⑧保健所では文献検索が十分にできないこと ⑨文献入手が難しく、文献や資料による学習が不十分で多面的に行えず、保健所以外も含めて文献検索が困難であること、また文献検索になれていないこと ⑩データの蓄積がなく、他部署からの情報収集が困難であること 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域に起きている問題を課題として感じたり、まとめたりすることができないこと ②問題が生じた背景・原因を把握すること ③問題意識を持続しつづけることが難しいこと ④業務担当性のために他の業務との関連性など総合的に把握したり、他からの情報を加えることが困難になっていること ⑤既存のデータ等から問題を総合的に把握、考えることが難しいこと ⑥文献検索が不十分であり、個人体験の域を超えられないこと
		11年度	11年度
		<ul style="list-style-type: none"> ②問題の原因・背景を整理し、総合的にとらえることが難しい。 ③問題認識が浅くデータ等による分析が少ない。 ⑧所内に文献等が少なく、文献検索や既知の情報収集が困難である。 ⑨大学等の図書の利用ができない。 ○文献検索等研究時間の確保が難しい。 ○先行研究がないため、参考にする文献等の入手が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の問題を解決すべき課題として絞り込むことができないこと。 ①研究テーマを選定することが難しい。 ①実績、評価、原因は把握できるがそこから先に進めない。 ②地域におきている現象、問題現象、問題の背景・原因など、問題を関連付けて捉えることができない。 ②自分の地域の課題を管内全体から検討することができていない。 ④地域の問題について総合的に捉えたり、解決すべき課題が特定できない。 ⑤情報の重みが判断できない。 ○事業や活動の評価は主観的な評価が多い。 ○大学などの専門図書館が遠く利用できない。

	スタッフ保健婦の判断	指導的立場の保健婦の判断
C 段階・目的・目標の設定	10 年度	10 年度
	<p>①感じている地域の現象・問題を研究テーマに結びつくかの判断が難しいこと</p> <p>②調査・研究の目的・目標を明確にし、具体的に記述することが難しいこと</p> <p>③指定の調査・研究が多いことから既に目的・目標が決められている場合が多いことから、十分に検討する機会が少ないこと</p> <p>④研究の見通しがもてず、結果の予測も十分に検討されていないこと</p> <p>⑤事前の情報収集が不足しており、仮説を立てることが難しいこと</p> <p>⑥キーワードが明確にできないこと</p>	<p>①地域の問題を研究課題に結びつけることが難しいこと</p> <p>②調査・研究の目的・目標を明確にできないため、抽象的な記述になりがちであること</p> <p>③仮説が明確でなく、仮説設定をどこに置か迷うこと</p> <p>④結果の予測が十分に検討されにくいこと</p> <p>⑤仮説を立てる作業を省略しがちであると捕らえていること</p>
	11 年度	11 年度
	<p>①地域におきている現象を感じとるレベルや課題を研究テーマに結びつけることが</p> <p>②目標設定が抽象的で具体化できない。</p> <p>②目的・目標が焦点化しにくい。</p> <p>○仮説をたて、調査を進めることが不明確である。</p> <p>○目的・目標に関する記述が研究全体をあらわしているか不安である。</p>	<p>①思いが先行し、何がしたいかが客観的事実として表現できない。</p> <p>①課題から研究テーマを導き出すことが難しい。</p> <p>①実践中の業務との関連、生かし方が難しい。</p> <p>②目的・目標の明確化が不十分である。</p> <p>②調査目的・目標が具体的に表現できない。</p> <p>②目的の明確化が難しい。</p> <p>○研究計画書を作るが難しい。</p>
D 段階・調査の実際	10 年度	10 年度
	<p>①調査目的に応じた調査方法を選択することが難しいこと</p> <p>②地域の課題を明らかにするため対象を選択していることか不安であること</p> <p>③最も適切な調査方法は何かなど調査方法に対する知識・技術が不足していること</p> <p>④時間の余裕がないため既存の調査方法を参考にすることが既存の調査表の入手が困難であること</p> <p>⑤目的に応じた一貫性のある調査項目の作成が難しく、項目が多すぎ、偏りがちで</p> <p>⑥分析を想定した調査票、回答しやすい調査票の作成が難しいこと</p>	<p>①調査目的と調査の実際とを関連付けることが不十分であること</p> <p>②調査目的に応じた調査方法、内容を選択することが難しいこと</p> <p>③地域の課題を明らかにするための適切な調査対象・方法の選択、目的に応じた調査票の作成(調査内容・項目)が難しいこと</p> <p>④疫学の知識が少ないこと</p>
	11 年度	11 年度
	<p>②研究課題を明らかにするために必要な対象の設定が適切か不安である。</p> <p>②③調査対象や方法の選定が難しい。</p> <p>⑤目的に応じた調査項目の設定がむずかしい。</p> <p>⑤課題や目的に応じた調査票が作りにくい。</p> <p>⑥調査を受ける側が記入しやすい表現にすることが難しい。</p> <p>○調査項目のスケールの設定が難しい。</p> <p>○データ収集の方法がむずかしい。</p> <p>○予備調査を実施しないで研究を行っている。</p>	<p>②目的に応じた調査方法の選択が難しい。</p> <p>③目的に応じた調査対象数をどのぐらいにするか判断に迷う。</p> <p>③目的に応じた調査票の作成が難しい。</p> <p>③質問項目の整理に困っている。</p> <p>○妥当なスケールについての知識が不足している。</p> <p>○研究目的よりも実施可能かどうかを優先しやすい。</p>

		スタッフ保健婦の判断	指導的立場の保健婦の判断
E 段階・結果の分析と解釈	10年度	<p>①目的に応じた分析の視点、分析方法の選択、特に調査対象者が多い場合に選択が難しいこと</p> <p>②分析プロセスに慣れなくて、テーマに沿った、また課題を明らかにするための分析方法が難しいこと</p> <p>③方法に3つの処理はノット活用や検定方法に9の知識・技術が不可欠</p> <p>④結果のうち、どの数値を使うか、また数値をどう解釈するかが難しいこと</p> <p>⑤データの客観性の確保、客観的解釈が難しいこと</p> <p>⑥他の地域との比較検討を十分に行っていないこと</p>	<p>①目的に応じた分析になっているか、分析方法に自信が持てないこと</p> <p>②分析方法が経験の域を越えられないこと</p> <p>③コンピュータ操作に不慣れであること</p>
	11年度	<p>①目的に応じた分析方法の選択が難しい。</p> <p>③統計処理やコンピュータが難しい。</p> <p>⑤目的に応じたデータの読み取りが難しい。</p> <p>⑥全国など他県との比較・解釈に困る。</p> <p>○研究結果を解釈し、考察することが難しい。</p>	<p>①目的・結果に応じた解釈が難しい。</p> <p>①結果分析においては、全体を押しえらるとともに具体的な項目についても分析を行うことが難しい。</p> <p>①先行研究についての文献検索が十分に行われていない。</p> <p>②分析のための統計手法の知識が不足している。</p>
F 段階・結果のまとめ	10年度	<p>①目的に応じた一貫した論文作成が難しいこと</p> <p>②第3者にわかりやすい文章、図、表の作成が難しいこと</p> <p>③調査・結果を計画等に生かすににくいこと</p> <p>④プレゼンテーション</p>	<p>①まとめ方に自信が持てないこと</p> <p>②一貫した論文作成が難しいこと</p> <p>③他職種、他機関、住民に理解できるようわかりやすい文章、資料を作成することが難しいこと</p>
	11年度	<p>①目的の設定から考察まで論旨を一貫して記述することが難しい。</p> <p>②わかりやすい文章や図表を用いた表現が難しい。</p> <p>○莫大な情報から必要な情報を精選し、表現することが難しい。</p> <p>○研究の要旨の書き方が難しい。</p> <p>○研究目的から離れたデータの読み取りを中心とするの報告に陥りがちである。</p>	<p>①研究結果をわかりやすく示すことが難しい。</p> <p>①経験が少ないために研究のまとめに時間がかかるといえる。</p> <p>②目的と結果が一致しない。</p> <p>③わかりやすい文章や図表の作成が難しい。</p> <p>○結果を事業計画に生かすことが難しい。</p> <p>○発表先によって、まとめ方が変わるため負担が大きい。</p>

11年度の結果のうち、10年度の結果と同様の項目は同一番号とし、○で表している。

表15

指導保健婦が実施した指導・助言内容とスタッフ保健婦が役立ったと考える指導・助言内容

	保健活動に関する調査・研究を実施する上で必要な事項	指導・助言上の留意事項	指導・助言上の工夫 (必要と思うこと)
A 段階・調査・研究の意義	10 年度 1. 調査・研究の必要性・意味を理解している 2. 調査・研究の位置付けが明確である	指導・助言上の留意事項 ○専門職として必要な研究的姿勢 ○日常生活における調査・研究的視点とその意義 ○保健活動の実践を踏まえた地域の健康課題の提案・その根拠・データの必要性・重要性 ○あらゆる活動場面における調査・研究の動機付け ○保健所の調査・研究機能の位置づけの動機付け ○職場における調査・研究の取り組みの共有化と経験 ○調査プロセスの段階ごとの適時・適切な指導・助言と体制整備	○日常業務の中に研究テーマがあることの認識・動機付け ・学会誌、調査・研究報告書の積極的回覧 ・保健所管内研究等における調査・研究発表の実施 ・担当業務の整理、課題の明確化及び解決策の検討 ○調査・研究の必要性に関する検討の場の設置 ○学識者、大学等の協力による調査・研究指導体制の整備 ○職場における調査・研究の必要性の共通理解 ・上司、他職員に対する調査・研究の必要性・意義についての説明
B 段階・問題の把握と明確化	10 年度 1. 地域で起きている現象・問題を感じとる 2. 現象・問題が生じた背景、原因を把握する 3. 問題間の関係を整理し、総合的にとらえる 4. 問題の中から解決すべき課題を特定する 5. 課題解決に関連するデータ・情報を収集する 6. 文献、関係者などを通じ既知の情報を調べる	○問題意識の継続性 ○問題の現状、問題の研究的視点 ○担当業務と他業務との関連性など事業の総合的把握 ・既知データからの問題把握 ・文献検索、データ・情報収集の方法 ○問題の原因・背景の把握・整理方法 ○客観的・具体的な課題解決方法の検討 ○既存の資料・関係者からの聞き取り ○テーマに関する情報・資料・文献の収集と方法 ○先行調査・研究の検討	○業務計画の中に調査・研究を明記すること。 ○指導者自身による研究の展開に対する力量の形成。 ○担当業務と他事業、総合事業との関連性の検討 ○地域の健康実態の把握、問題の特定 ・問題の構造化、図式化、事例の検討等 ・チームでの問題の検討・共有化できる場の設定 ・関連統計、情報の整理 ○インターネットの活用 ○個人的ネットワーク ○保健福祉に関する年報等の活用 ○先進地の視察、学会等の参加、学会誌等の文献検索

保健活動に関する調査・研究を実施する上で必要な事項	指導・助言上の留意事項	指導・助言上の工夫 (必要と思うこと)
B 段階・問題の把握と明確化	<p>11 年度</p> <p>○課題分析の視点についての助言。 ○身近にあるデータの活用と問題の客観視。 ○研究指導者による文献情報の提供。 ○大学、職能団体等図書館の活用。</p>	<p>○文献検索等により課題分析の視点を明確化。 ○地区診断の重要性。 ○研究計画作成時における研究課題の明確化。 ○問題や課題を文章化するとともに図式化や構造化すること。 ○概念構造図を使って研究の意義について説明することの意義。 ○日常業務から研究に結びつけるためのプロセスを図式化すること。 ○保健所と大学との連携、インターネットの活用方法。 ○課題の重要性と管内全体の取り組みの必要性。 ○他の保健所の研究活動について情報の収集。 ○既存のデータを踏まえ、地域の実態把握。 ○情報や問題の整理について記録の必要性。 ○日常業務における文献検索の時間の確保。 ○大学図書館の有効活用。 ○研究予算の確保。</p>
C 段階・目的・目標の設定	<p>10 年度</p> <p>1. 課題を調査・研究のテーマに結びつける 2. 調査の目的・目標を具体的に表現する 3. 調査・研究によってどのような結果が得られそうか予測する</p>	<p>○日常保健婦活動の中から研究テーマの選択 ○文献要約の作成 ・テーマ、目的、目標、結果の一貫性 ○研究動機、研究目的、仮説設定等の検討記録の保管 ○先行調査、研究の検討 ・調査・研究要旨、目的、結果の検討 ・該当調査・研究の意義・特徴に関する検討 ○健康・生活実態、実践活動等の地域特徴の反映状況</p>
11 年度	<p>○地域課題と研究課題の関連性 ○目的・目標の焦点化 ○研究目的と研究動機の関連付け ○仮説設定、結果予測、研究の見通しについての十分な検討 ・的確な実態把握・分析、事例の情報収集 ・キーワードの設定 ・目的・目標の具体的な記述 ○先行調査・研究との比較検討 ○研究結果と保健活動の関連性 ○研究計画書に仮説概念枠組みを含めること。 ○研究計画の立案、研究デザインに関する取り組み方法。 ○客観的事実に対する表現や記述の仕方。 ○具体的に記述するとともに根拠や妥当性からも見直すこと。 ○課題解決の方向性を検討すること。 ○事業の効果を図式化して表現すること。</p>	<p>○すでに得られている情報を整理し、予測される結果について、構造化を図式化し、これに基づいた仮説の検討。 ○概念枠組みの整理。 ○地域におきてい現象に対する感じや思いを研究目的・テーマに結び付けていくプロセス。 ○課題とテーマ、キーワードの設定。 ○概念や用語の整理方法。 ○目的・目標を具体化するために話し合い。 ○目的・目標は記述した後、口頭説明してもらう。 ○大学教員等のスーパーバイザーによる協力体制。</p>

保健活動に関する調査・研究を実施する上で必要な事項	指導・助言上の留意事項	指導・助言上の工夫 (必要と思うこと)
D 段階・調査の実際 1. 調査の対象を選択する 2. 目的にあった調査・研究方法を選択する (統計調査か事例調査か) 3. 目的に応じたデータ収集の方法を選択する (観察法か質問法か等) 4. 目的に応じた調査票等を作成する 5. 予備調査等の結果により方法や内容を修正する	10年度 ○ 調査方法に関する知識・技術(対象選定、方法選択) ○ 調査票の作成 ・ 目的に沿った一貫性のある調査項目の作成 ・ 調査項目の適切な内容、数 ・ 分析方法を想定した調査票の作成 ・ 回答しやすい調査票の作成 ・ 先行研究での調査票等の検討 ・ 調査期間を考慮した内容 ・ 実現可能性の検討 ・ 課題解決に必要な内容の検討 ○ 地域、対象特性を考慮した内容の検討 ○ 予備的調査の実施と検討、修正 ○ 先行調査・研究の検討(調査目的、方法、対象、調査内容、結果) ○ 調査・研究対象機関、関連機関との調整・連携 ○ 調査・研究実施に当たり、予め予測される問題の対処方法の検討	○ 調査・研究の進行管理(目的との関連性) ○ 調査対象、調査方法の選定に関する相談・指導体制 ○ 調査票作成の相談・指導体制 ○ 調査票の妥当性・信頼性の検討、調査票の添削の指導体制 ○ 先行調査・研究、文献、専門分野の学識者等の紹介 ○ 保健婦以外からも、広く意見を聴取できる場の設定 ○ 調査・研究関係者の検討、共有の場の設定 ○ 指導者、専門家等からの具体的な指導・助言
11年度	○ 目的にあった適切な研究方法、データ収集方法。 ○ 記述式の質問項目に対するデータの分析や解釈。 ○ テーマに沿った信頼性・妥当性が検討されている調査項目を用いる必要性。 ○ 仮説に基づいた調査項目の設定と、結果に関するデータ収集方法。 ○ 調査の各プロセスごとの実施方法。	○ 調査内容の妥当性 ○ 選択肢作成上の留意点 ○ 数値化、図式化 ○ プレテストの意義 質問の配置、内容の検討 ○ 調査マニュアルの作成 ○ 調査の信頼性 ○ 調査方法等に関する文献等の紹介。 ○ 調査・研究の進行管理の重要性。

	保健活動に関する調査・研究を実施する上で必要な事項	指導・助言上の留意事項	指導・助言上の工夫 (必要と思うこと)
E 段階・結果の分析と解釈	10年度 1. 目的に応じて収集結果を分析する 2. 目的に照らして明らかになった事柄を示す 3. 調査結果と分析結果を解釈する	指導・助言上の留意事項 ○統計処理に関する知識・技術 ○事例研究に関する知識・技術 ○目的に応じた分析の視点・方法の選択 ○課題が見える分析方法 ○分析に当たり必要なデータ入力の手組み、解析方法(ソフトの活用) ○分析のためのコンピューター操作 ○結果の解釈 ・分析で取り上げる項目の選択 ・項目間の関連性(読み取り) ・仮説、結果予測との関連性 ・先行調査・研究結果との比較検討	○目的に応じた分析方法、データ解析に対する指導・助言 ○分析プロセスへの指導 ○パソコン活用の実際 ○ソフト活用の実践 ○研究結果の保健活動への反映
F 段階・結果のまとめ	10年度 1. 目的から結果まで論旨が一貫している 2. わかりやすい、読みやすい文章・図表を作成する 3. 報告書を作成する 4. 結果を地域住民、関係者に報告する 5. 結果を研究誌等に発表する 6. 結果を保健計画や事業計画等に生かす	○各因子の影響を予測することの必要性。 ○調査内容の関連性に基づく解釈。	○諸要因の影響とその結果を分けて考えること。 ○データ分析方法。 ○統計手法の活用方法やデータの見方。 ○表・グラフなど図式化することにより結果を事前にイメージすること。 ○コンピューター操作の実際。 ○結果分析の解釈。 ○解釈の仕方。 ○結果の活用方法
		○調査・研究結果について、仮説、結果予測との関連からの分析・検討 ○調査・研究結果の周知 ・文章、図表等の表現 ・明確になったこと、強調点を中心のまとめ方 ・プレゼンテーションの知識・技術 ○保健活動への調査・結果の反映	○報告書、学会抄録等の添削 ○調査・研究で明確にしたいこと、地域特性を考慮したまとめ方についているかの指導・助言 ○まとめめには ・学会誌等文献、専門家の紹介 ・関係者による検討の場の設定 ・文章表現、図表に対する指導・助言・学会誌等の紹介 ○保健所管内研修等における発表の場の設定 ○調査・研究結果の次事業への反映

F 段階・結果のまとめ	保健活動に関する調査・研究を実施する上で必要な事項	指導・助言上の留意事項	指導・助言上の工夫 (必要と思うこと)
	11年度	<p>○結果、考察と研究目的、仮説の検証について論旨の一貫性。</p> <p>○学会誌等に発表する方法。</p> <p>○用語・概念などを含め論文の書き方の原則。</p>	<p>○結果の解釈と考察の論点の妥当性。</p> <p>○結果・考察と目的、仮説検証の可否。</p> <p>○結果のまとめの作成の仕方。</p> <p>○専業から携きだされた結果。</p> <p>○論文、抄録の書き方、口演でのポイント(相手にわかりやすい表現、文字の大きさ、スライド、OHP使用時の効果的な見せ方)。</p> <p>○学会への積極的参加。</p> <p>○他の調査研究のまとめ方の提示。</p> <p>○論文のまとめ方の学習の必要性。</p>

調査・研究上の課題に対する指導・助言の実施状況(AからF段階)

調査・研究を実施したスタッフ保健婦

対象 設問	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		13		14		15		16		17		18	
	1	2	1	2	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2
A. 調査・研究の意義																																				
1. 調査・研究の必要性・意味を理解している																																				
2. 調査・研究の位置づけが明確である																																				
B. 問題の把握と明確化																																				
1. 地域におきている現象・問題を感ずる																																				
2. 現象・問題が生じた背景、原因を把握する																																				
3. 問題間の関係を整理し、総合的にとらえる																																				
4. 問題の中から解決すべき課題を特定する																																				
5. 課題解決に関連するデータ・情報を収集する																																				
6. 文献、関係者などを通じ既知の情報を調べる																																				
C. 目的・目標の設定																																				
1. 課題を調査・研究のテーマに結びつける																																				
2. 調査の目的・目標を具体的に表現する																																				
3. 調査・研究によってどのような結果が得られそうか予測する																																				
D. 調査の実際																																				
1. 研究の対象者を選択する																																				
2. 目的にあった調査・研究方法を選択する																																				
3. 目的に応じたデータ収集の方法を選択する																																				
4. 目的に応じた調査表等を作成する																																				
5. 予備調査等の結果により方法や内容を修正する																																				
E. 結果分析と解釈																																				
1. 目的に応じて収集結果を分析する																																				
2. 目的に照らして明らかになった事柄を示す																																				
3. 調査結果と分析結果を解釈する																																				
F. 結果のまとめ																																				
1. 目的から結果まで論旨が一貫している																																				
2. わかりやすい、読みやすい文章・図表を作成する																																				
3. 報告書を作成する																																				
4. 結果を地域住民、関係者に報告する																																				
5. 結果を研究誌等に発表する																																				
6. 結果を保健計画や事業計画に生かす																																				

「課題と思う項目」に対して指導・助言を受けなかった(指導・助言しなかった)項目
 「課題と思わない項目」に対して指導・助言を受けた(指導・助言した)項目

該当項目
 最も重要な項目
 該当項目+最も重要な項目

設問1 保健婦が困っていること、課題と想っていること
 2 各段階で実施している指導・助言の内容
 3 指導・助言上の実際の工夫

指導的立場の保健婦

対象	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		13		14		15		16		17		18	
	設問	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
A. 調査・研究の意義																																				
1. 調査・研究する必要性・意味を理解している																																				
2. 調査・研究の位置づけが明確である																																				
B. 問題の把握と明確化																																				
1. 地域におきている現象・問題を感ずる																																				
2. 現象・問題が生じた背景、原因を把握する																																				
3. 問題間の関係を整理し、総合的にとらえる																																				
4. 問題の中から解決すべき課題を特定する																																				
5. 課題解決に関連するデータ・情報を収集する																																				
6. 文献、関係者などを通じ既知の情報を調べる																																				
C. 目的・目標の設定																																				
1. 課題を調査・研究のテーマに結びつける																																				
2. 調査の目的・目標を具体的に表現する																																				
3. 調査・研究によってどのような結果が得られそうか予測する																																				
D. 調査の実際																																				
1. 研究の対象者を選択する																																				
2. 目的にあった調査・研究方法を選択する																																				
3. 目的に応じたデータ収集の方法を選択する																																				
4. 目的に応じた調査表等を作成する																																				
5. 予備調査等の結果により方法や内容を修正する																																				
E. 結果分析と解釈																																				
1. 目的に応じて収集結果を分析する																																				
2. 目的に照らして明らかになった事柄を示す																																				
3. 調査結果と分析結果を解釈する																																				
F. 結果のまとめ																																				
1. 目的から結果まで論旨が一貫している																																				
2. わかりやすい、読みやすい文章・図表を作成する																																				
3. 報告書を作成する																																				
4. 結果を地域住民、関係者に報告する																																				
5. 結果を研究誌等に発表する																																				
6. 結果を実践計画や事業計画に生かす																																				

設問1 保健婦が困っていること、課題と想っていること
 2 各段階で実施している指導・助言の内容
 3 指導・助言上の実際の工夫

該当項目
 最も重要な項目
 該当項目+最も重要な項目
 「課題と思う項目」に対して指導・助言を受けなかった(指導・助言しなかった)項目
 「課題と思わない項目」に対して指導・助言を受けた(指導・助言した)項目

調査・研究を実施したスタッフ保健婦

対象	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			13			14			15			16			17			18		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3			
G. 研究のマネジメント																																																						
1. 取り上げる課題の意義を周囲に説明する																																																						
2. 調査・研究計画書を作成する																																																						
3. 調査・研究の円滑な実施に向け、職場内の合意形成や進行管理する																																																						
4. 調査・研究を保健婦業務として位置づける																																																						
5. 研究費の予算化ができる																																																						
6. 調査・研究の指導者の協力を得る																																																						
7. 研究的視点から業務の評価が行えるように後援を指導する																																																						

指導的立場の保健婦

対象	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			13			14			15			16			17			18		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
G. 研究のマネジメント																																																						
1. 取り上げる課題の意義を周囲に説明する																																																						
2. 調査・研究計画書を作成する																																																						
3. 調査・研究の円滑な実施に向け、職場内の合意形成や進行管理する																																																						
4. 調査・研究を保健婦業務として位置づける																																																						
5. 研究費の予算化ができる																																																						
6. 調査・研究の指導者の協力を得る																																																						
7. 研究的視点から業務の評価が行えるように後援を指導する																																																						

設問1 保健婦が困っていること、課題と想っていること
 2 各段階で実施している指導・助言の内容
 3 指導・助言上の実際の工夫

○ 該当項目
 ◎ 最も重要な項目
 ● 該当項目+最も重要な項目
 ◻ 「課題と思う項目」に対して指導・助言を受けなかった（指導・助言しなかった）項目
 ◼ 「課題と思わない項目」に対して指導・助言を受けた（指導・助言した）項目

調査・研究を実施したスタッフ保健婦による記述内容

A. 調査・研究の意義

	(1)あなたが困っていること、課題 と 思っていること	(2)各段階で受けた指導・助言の 内容	(3)役立った・必要と思った指導・ 助言
30歳代 スタッフ	研究を行う意義や目的を文献や 既存の倫理に基づき明確に述べ ること。(メンバー間で一致させる までに時間がかかった)		
40歳代 スタッフ	事業の評価として位置付ける。	事業の効果について評価し、今後 の事業に反映させる。	
30歳代 スタッフ	保健所内で調査・研究の位置付 けが明確でない。(体制づくり)	研究は特別なことではなく、事業 等の評価がより充実することにつ ながる。	研究テーマをもちながら事業を展 開し、評価する。
20歳代			
40歳代 スタッフ	保健所として調査・研究の窓口が あいまいである。	研究の意義を確認する。	調査・研究への取り組みを早い段 階で係・課で決定すること。
30歳代 スタッフ	日常業務の中に調査・研究をどう 位置付け、組み込んで時間を確 保するか。	既に決まっている日常業務が優 先される、という体制で所としても 係・課としての位置付けが不十分。	係・課の同意が得られること。業 務計画書の中にきちんと調査・研 究が明記されていること。
30歳代 スタッフ	係内だけの対応にとどまらず、所 内体制とした位置付けで、予算・ 人的協力も得られる必要がある。	研究の必要性を理解してもらえ るように上司(課長・所長)との助言・ 指導の場を設けてもらう配慮をし てくれた。	
40歳代			
40歳代 係長級			
20歳代			
40歳代 スタッフ	必要性や意味は漠然と理解して いるが、大変であるため調査・研 究しようという気になかなかなら ない。	「保健所保健婦の機能強化の研 修」受講することを勧められ、こ の機会にやってみるように言われ た。	所として又は係として協力してく れる体制があることが明確である とよい。
30歳代 スタッフ	業務の中での研究の位置付け。	研修として研究を行う。	研究を行う上で周囲に協力を働き かける。
30歳代 スタッフ	研究のつもりが実態調査、追試の レベルで研究としての位置付けが できなかった。	研究:1テーマ1研究で、多くの テーマが入り込みすぎているとの 指摘。	
30歳代 スタッフ	研究の必要性。研究の位置付け。		
30歳代			
30歳代			
40歳代			

調査・研究を実施したスタッフ保健婦による記述内容

B. 問題の把握と明確化

	(1)あなたが困っていること、課題 と 思っていること	(2)各段階で受けた指導・助言の 内容	(3)役立った・必要と思った指導・ 助言
30歳代 スタッフ	関連する文献や資料収集。(地元 に大学がないため、文献収集が 困難だった)		
40歳代 スタッフ	大学や看護学院等の図書館の活 用。	文献・先行研究等の紹介。	データ・情報の有効活用。
30歳代 スタッフ	問題の中から解決すべき課題を 特定する。	各問題の関係を明らかにし、優先 性を考える。	問題の中から一番中心にあり優 先されると思われる問題を絞り込 む。
30歳代 スタッフ	当保健所に異動して間もなかつた こともあったが、自分の考えてい た課題が経時的、総合的な面から 捉えきれしていない。	課題分析の視点についての助言 が得られた。	課題分析の視点を整理できるよう 文献等の指示があった。
20歳代 スタッフ	タイムリーな文献を探すことが難 しかった。たくさんの情報は取った つもりだが、それらを総合的にどう 判断して課題を特定するかという ことが難しかった。	それを問題とあげた根拠やその 問題の中で課題を見つけ出し、研 究として成り立つのかなど。	
40歳代 スタッフ	地区診断が保健所の機能として 十分に発揮されていない。		地区診断を業務に中できちんと位 置付けること。所内の体制づくり。
30歳代 スタッフ	問題を総合的に捉えるときや課題 の特定の視点が一人だけではまだ 保健婦だけでは広がりにくい。 所内の文献が少ない。近くに大学 もなく、資料の検索が困難。	問題の背景や根拠となる情報を 再度見直し、整理すること。身近 で調べられるもの(インターネット 等)の活用。大学の図書館の開 放。	スーパーバイザーによる客観的な 助言。保健所と大学の提携。
30歳代 スタッフ	限られた時間・期間内で実現可能 な、かつ、この地域で優先される 課題がよりクリアに示せるようにす るための課題の絞り込み。近くに既 知の情報を詳細に調べられるとこ ろがない、あっても、その時間 補償が得られていず、今回も何度 か自分の年休を使った。	研究課題の明確化について。テー マを絞り込んで、こんなことの結果 を得たいと実践の場では思うが、 それを研究的手法を使い、どう示 せるかがイメージできなかつたの で、事例(プロセスを中心に)を紹 介してくれるとよかつたのかもし れない。	研究計画作成時点での研究課題 の明確化を行った。
40歳代 スタッフ	問題の中で研究として扱ったほう が良いのかどうかの見極め。先行 研究がほとんどなかつたため情報 収集が困難であった。	自分が何をしたいのかを明確化 し、他者に伝えるためにどうす るかを考えること。助言者から、参 考文献の紹介を受け、借りる事 で本の中から何を評価すべきかを考 えること。	日常業務で感じていることを明確 化し(客観視)業務の改善に生か していく。本来の記録の意味、要 素を整理した。分析の枠組みの項 目作成に生かした。
40歳代 係長級			
20歳代 スタッフ	問題点があるのはわかっている が、問題が生じた背景、原因等が 整理されておらず頭の中でまと まっていなかつた。	客観的評価できる尺度を用いて、 対象の生活の質を数的に評価す る。	
40歳代 スタッフ	問題は起きている原因をつかむ 能力、整理するの力は身について いない。	対話する中で現象を整理し、問題 の関係を整理してくれた。課題解 決に関する文献を紹介してくれ た。	より研究的意向で文献等の紹介 をしていただけると良い。
30歳代 スタッフ	現在実施している業務の見直し、 まとめ。	他保健所保健婦との情報交換。	情報の整理の方法。
30歳代 スタッフ	問題の捉えが浅い。既存のス ケールを把握。	身近にあるデータの活用。研修の 中で文献検索について講義を受 けた。	問題や課題を文章化したものを再 度、図式化し、構造化する。
30歳代 スタッフ	課題の特定。文献などから位置の 情報を調べる。	課題の整理を行う。文献検索の方 法を具体的に指導を受けた。	必要な文献の調べ方、入手方法 について学ぶ。

調査・研究を実施したスタッフ保健婦による記述内容

30歳代 スタッフ	情報収集の方法が限られている。	大学の図書館、インターネットにより既知情報について紹介が得られた。	遠隔地についても、既知情報が収集しやすくなるための方法について。(大学図書館、インターネットの活用など)
30歳代 スタッフ		課題特定のため、2, 3の作業を再度いっしょに行った。文献検索。	その課題をなぜ研究として扱うのか、ということも含めた概念構成図を使つての説明。関連分野の紹介。
40歳代 係長級	保健婦活動の中での気づきはあり、課題と思うこともあるが、研究という形ですすめていくことがなかなか難しい。日常の業務に追われ、経年的なデータのまとめで終わることが多い。	もっているデータをどう処理するか目的やテーマと照らして、どう整理すると良いか。	日常業務をどのような展開のプロセスで行うと、研究となりうるか、図式化し、整理する。今ある課題を特定し、発生プロセスを整理。(現象面の整理の仕方を段階別に表示)

調査・研究を実施したスタッフ保健婦による記述内容

C. 目的・目標の設定

	(1)あなたが困っていること、課題と 思っていること	(2)各段階で受けた指導・助言の 内容	(3)役立った・必要と思った指導・ 助言
30歳代 スタッフ	研究で明らかにする点の絞込み。 目的・目標の表現は研究全体で 表しているか？(表現方法を示す のに時間がかかった)	メンバー間での話し合いを深め、 方向性の示唆を受けた。	
40歳代 スタッフ	研究によりどのような結果が得ら れるか予測する。	研究前に既に得られていた情報 を整理し、仮説を想定し検討。	研究前に既に得られていた情報 を整理し、予測される結果の構造 を図式化、これに基づき仮説を検 討したい。
30歳代 スタッフ	抽象的な目標設定でなかなか具 体化できなかった。	目標の具体化と結果の予測を結 びつけた時、一致する必要がある こと。	研究の目的を見失いがちになると きに整理をする。(話し合いの場を もつ)
20歳代 スタッフ	目的・目標の表現が難しい。どの ような結果が得られるのかはイ メージがつきにくかった。		
40歳代 スタッフ	まとめ案を作る担当者にまかせら れる。		課題を業務の中で調査・研究の視 点で取り組むように位置付けるこ と。
30歳代 スタッフ	みんなにわかるように、短く表現 すること。目的・目標の絞込み。	客観的な表現の仕方。目的・目標 は妥当か。	保健婦以外に伝わる内容か。この 目的で課題が明らかになるか。
30歳代 スタッフ	調査の際の仮説「概念枠組み」の 整理の仕方に困り不安。	仮説、概念、枠組みの整理など研 究計画書への助言を得た。	概念枠組みの整理は結果をまと める時に非常に役立った。調査の 目的・目標の具体化の表現をどの ようにしたら良いか。
40歳代 スタッフ	目的・目標を誰にでも解けるよう に表現する。	自分なりに表現したものを助言者 にファックスにてチェックしてもら い、指摘を受けた。	何のために、何をするのかをより 具体的でかつ明瞭に示す。
40歳代 係長級			
20歳代 スタッフ	仮説を立てないで調査を進めた 為、どの段階を到達点とするかが 不明確だった。	地区診断(医療状況、保健福祉 サービス)を振り返り、	対象地域の医療状況、保健福祉 サービス等の正確な把握。
40歳代 30歳代			
30歳代 スタッフ	あれもこれの調査法に盛り込もう として研究テーマがぼけてしまう。	問題・課題の図式化しながら、何 が重要かディスカッションしながら 整理する。	概念や用語の整理。
30歳代 スタッフ	課題を研究のテーマに結びつけ る。	課題を研究として取り組むまでの 研究計画の立て方、研究デザイン のアドバイス。	研究計画について、助言してもら える体制がほしい。
30歳代 スタッフ	地域に起きている現象を感じ取る レベルから研究テーマに結び付け てゆくこと。	研究目標の明確化、テーマの絞り 込み方。	漠然とした思いのレベルを研究の スーパーバイザーと話し合う中 で、研究目的・テーマに結び付け てゆくプロセスは、お互いにとつ ても必要と思う。
30歳代 スタッフ	テーマの設定。論理的表現。	テーマの設定。表現方法。	課題とテーマの結びつけ。キー ワードの設定。
40歳代 係長級	課題を研究的な視点で捕らえ、 テーマを明らかにすること。	どのようなことを明らかにするこ とが研究となりうるか、日々の業務 上の課題を研究に結びつける視 点や手法。	

調査・研究を実施したスタッフ保健婦による記述内容

D. 調査の実際

	(1)あなたが困っていること、課題と 思っていること	(2)各段階で受けた指導・助言の 内容	(3)役立った・必要と思った指導・ 助言
30歳代 スタッフ	研究課題を明らかにするために、 対象の設定は適切か？(事前に どのような結果が得られるかとい う検討が必要だった)		
40歳代 スタッフ	アンケート調査では同一の方向 性がある回答が導かれるような質 問項目の設定。調査項目に網羅 すべき視点。(分析時に、これも聞 き取るべきだったと振り返ることが あった)		
30歳代 スタッフ	調査方法の選択。調査表作成。	各調査方法の特徴と自分たちの 研究動機や調査目的等を照らし 合わせて選択する。調査目的別 に仮説(予測される結果の構造) に基づき、項目を検討していく。	研究動機や調査目的からの研究 デザインの決定の助言。(標本 数、研究目的からの妥当性につ いて)調査内容が仮説と一致でき ているかの助言。調査内容の文言 が妥当か、選択肢作成上の留意 点。調査表の質問項目の流れに ついての助言。(被調査者が受け やすい流れ)
30歳代 スタッフ	研究の対象となる事業が既に始 まっていたこともあり、効果的な調 査方法や対象の選定ができな かった。	量的にデータを収集するのか、質 的な研究手法を用いるのか、目的 に合った適切な研究方法やデー タ収集法について助言があった。	質的な研究に取り組んだが、その 方法論や意義について、先駆的 なデータや資料の提示がほしかっ た。
20歳代 スタッフ	学生の頃は、地域の状況を把握し きれなかった面もあり、対象の選 択に困った。もたもたしているうち に期日がせまり、可能な研究方法 が限られてしまった。		
40歳代 スタッフ			目的に応じた方法や文献等につ いての指導と助言。
30歳代 スタッフ	自分が知りたいこと中心の質問票 になりがち。課題や目的に合った 調査票が作りにくかった。	記述式になると、データの分析や 解釈が難しいため、数値化する こと。	アンケートの選択肢を数値化する こと。データを図式化することを例 示。調査票のプレテストの重要 性。
30歳代 スタッフ	目的に応じたアンケート手法(表 現や四段階で聞くのかなど)	アンケートの手法。	アンケートの手法を具体的に例を あげて示してもらったことが役に立 った。
40歳代 スタッフ	数が少ない場合の評価の意義と 自己評価の限界。調査項目。	自分自身を評価するのではなく、 他者の記録で評価する。(答えや すい)人数は少なくとも共通の取 り組みであれば可能。評価に向け て回答の設定方法。聞けるものは 全て聞くこと(同僚保健婦対象) で、あとで分析しやすい。前後に 比較するため。	客観的評価に向けて努力する。前 担当者から引き継いだ記録を評 価した。4段階評価とした。基本 的に課題と思われる点と、加えて自 由記載の項目を多く設定した。
40歳代 係長級			
20歳代 スタッフ	今まで、調査・研究を実施した経 験がなかったため、どのような手 法を使えば、課題が明確になるの わからなかった。調査者側が聞き たいことが伝わるような文書作成 が難しかった。	指導者より適切な研究方法を提 示してもらい、それに従って調査し た。	調査実施者によってバイアスが かからないように調査マニュアルを 作成した。
40歳代 スタッフ	研究方法の選定が難しく、デー タの収集方法も決まらなかった。	統計調査と事例調査の2つを実施 してみるよう助言を受ける。	もっと、方法の絡み込みができるよ うなアドバイスがあると良かった。

調査・研究を実施したスタッフ保健婦による記述内容

30歳代			
30歳代 スタッフ	目的に合った調査として、効果的な方法を選ぶこと。スケールを検討すること。	前後比較調査が適当。満足度の段階のとらえ方、回答の択一方法の工夫。	分析方法を頭に入れて、回答の方法を選択する。
30歳代 スタッフ	研究の目的にあった対象の選択。目的にあった調査方法を選択。データ収集の方法。	調査方法の内容について具体的にアドバイス。データ収集用紙の設計について助言。	調査の信頼性を高めるためのアドバイス。
30歳代 スタッフ	研究方法やデータ収集の方法。	調査の方法。(半構成の質問・インタビュー、同一人による実施) データの収集(調査内容～研究テーマ、仮説から内容を絞り込んでゆくプロセス)	予備調査から、質問の配置、内容の検討などについて、修正のアドバイスが得られた。仮説、研究テーマからは、必要のない質問項目は削除してゆくこと。
30歳代 スタッフ	調査用紙の作成。	文献からテーマに沿う信頼性、妥当性が検証されている調査項目を用いること。プリテストの方法、必要性。	根拠ある調査紙。
40歳代 係長級	目的が明らかになっても、調査内容が多すぎて、結果のまとめに苦労することが多い。予備調査は、ほとんど行われていないことが多い。	調査をどうすすめるのかのプロセスと方法について、具体的に指導を得たい。調査票の内容が結果を左右するが目的に応じた調査内容となっているか、点検や助言がほしい。	

調査・研究を実施したスタッフ保健婦による記述内容

E. 結果の分析と解釈

	(1)あなたが困っていること、課題と 思っていること	(2)各段階で受けた指導・助言の 内容	(3)役立った・必要と思った指導・ 助言
30歳代		分析の方向性についての助言。	
40歳代 スタッフ	研究結果を解釈し、考察する課 程。	既存の資料や先行研究・既知見と の関係からの助言。	
30歳代 スタッフ	収集結果の分析。結果の解釈。	収集した結果は、諸々の因子が 影響しあうことが考えられることを 予測する。得点化されたものを調 査内容の関連性を見て解釈する。	諸要因の影響が考えられる項目 とその結果を分けて考えることの 助言、データ分析方法への助言。
30歳代 スタッフ	質的研究の収集したデータの分 析と解釈の方法がわからなかつ た。	分析方法が多々あり、指導者も試 行錯誤していた。結局、分析解釈 する方法を指導してくれた。	指導者も自分と平行しているいろ んな方法で分析を試み、その結果、 具体的に図式化したものを説明し てくれて、その後の解釈がしやす かった。
20歳代 スタッフ	私たちは事例研究を行ったのだ が、事例担当を分担し、それぞれ で分析したため、分析時の視点が 微妙に差があり、総合的に分析す ることが困難だった。	まず原点に振り返り、目的・目標 に沿った分析を行うように。また、 グループ間の意思統一。	
40歳代			
30歳代 スタッフ	データは得られたが、どう判断す るか、視野が狭くなったり、片寄 った見方になってしまった。(主観 的)統計的手法を活用しきれない。	得られた結果からのみいえること を、客観的に表現できること。パソ コンの活用。	同じ係・課の保健婦よりも、客観 的にみて助言をもらえるスーパ バイザーからの指摘。統計手法の 活用方法。データの見方。
30歳代 スタッフ	単純集計はできたが、全国など他 県との比較、それをどう解釈する かに困った。目的を見失い膨大な データの読み取りに戸惑った。	研究テーマに沿った結果の導き方 について。	研究テーマに沿った論旨が一貫 できるような視点を持った結果、 解釈の導き方が役に立った。
40歳代 スタッフ	分析方法。	数量及び質的評価をあわせて分 析すること。	数量としては、肯定的回答を前後 比較して示す。質的には、主とし て自由記載を含む記述部分を整 理して類似内容を集め意味付けを して表に示した。
40歳代 係長級		助言を受けることができた。	
20歳代 スタッフ	どういった分析法を用いたら目的 を達成できるか全くわからなかつ た。分析后、数値を的確に判断す ることができなかつた。	目的を達成しやすくするための分 析法を提示してもらった。数値を 判断するための知識を提示して もらった。	
40歳代 スタッフ	調査結果から得られたことと日常 の中での予測されることが混乱し て表現しがちになる。	所外の助言者には、ファックスに て送付し、電話で助言を受け、助 言が十分にくみ取れないところ があった。	実際に面接上、結果分析の解釈 の助言が得られるとよかった。
30歳代	分析方法。		
30歳代 スタッフ	分析方法を予測して調査票を作 成していたので、混乱はしなかつ たが、今後もどの分析方法を用い ると良いか、どのような票を作成 すると効果的か。	調査の枠組みを立てた段階で何 と何をどのように関係付けるのか 構造化する。分析方法の選択。 (解析方法)	表、グラフを事前にイメージする。 (図式化)
30歳代 スタッフ	調査結果と分析。	結果は事実のみを記載すること。	結果として出たものの事実だけを 書くということが意外に難しかった ので、適切な助言者のアドバイス がほしい。
30歳代 スタッフ	統計処理について。	統計処理方法の紹介、検定につ いて。	統計処理の方法(データ解析や統 計的検定など)について。